



## ① 守山駅

守山駅は明治45年(1912年)に開業され、昭和48年橋上駅に改築されました。平成24年に開業100周年を迎え、現在は一日平均3万数千人が乗降しています。昭和20年7月30日にアメリカ軍機の爆撃を受け周辺につめ跡が残っています。

年を迎え、現在は一日平均3万数千人が乗降しています。昭和20年7月30日にアメリカ軍機の爆撃を受け周辺につめ跡が残っています。



## ② 湛渡山正福寺跡

現在の祠は平成8年頃に再建され、薬師如来と弁財天が祀られています。寺の起源は不明です。明治42年(1909年)の松明組再編までは湛渡山堂の拠点で、薬師堂で採火された元火が勝部神社に運ばれて大松明に奉火されたと伝わっています。

現在の祠は平成8年頃に再建され、薬師如来と弁財天が祀られています。寺の起源は不明です。明治42年(1909年)の松明組再編までは湛渡山堂の拠点で、薬師堂で採火された元火が勝部神社に運ばれて大松明に奉火されたと伝わっています。



## ③ 鎌倉山最明寺

鎌倉時代、北条時頼が入洛途中この地に立ち寄って開いたと伝わっています。その後正安元年(1299年)時宗に改宗されました。本堂は、文政6年(1823年)に再建されています。石造五重塔は「時頼塔」とも呼ばれ、国指定重要文化財になっています。火まつりの太鼓を所持しています。

鎌倉時代、北条時頼が入洛途中この地に立ち寄って開いたと伝わっています。その後正安元年(1299年)時宗に改宗されました。本堂は、文政6年(1823年)に再建されています。石造五重塔は「時頼塔」とも呼ばれ、国指定重要文化財になっています。火まつりの太鼓を所持しています。

石造五重塔

## ④ 乾勝山安楽寺跡

聖徳太子の創建された寺院ですが、諸般の事情で取り壊され跡地に共同住宅が建っています。平安時代は勝部大明神の奥院で、9世紀初め頃は天台寺院でした。寛文中(1661～1673年)に黄檗宗に改宗、木造千手観音立像は国指定重要文化財ですが現在拝観できません。



## ⑤ 勝部神社(勝部城跡)

大化5年(649年)創建。戦の神として称えられてきた歴史があり、室町時代には勝部城があったと伝えられています。本殿は椋皮葺三間社流造で国指定重要文化財に指定されています。800余年の歴史をもつ「勝部の火まつり」は県選抜無形民俗文化財に指定され、毎年1月第2土曜日に執り行われます。

大化5年(649年)創建。戦の神として称えられてきた歴史があり、室町時代には勝部城があったと伝えられています。本殿は椋皮葺三間社流造で国指定重要文化財に指定されています。800余年の歴史をもつ「勝部の火まつり」は県選抜無形民俗文化財に指定され、毎年1月第2土曜日に執り行われます。



本殿

勝部の火まつり



## ⑥ 宝勝寺跡

平安時代の保安元年(1120年)頃、勝部神社の神宮寺として創建。金森・三宅との元亀争乱の時に、織田信長が野洲・栗太郡の諸村から出させた60余通の起請文を納めた寺(別当寺)です。明治初年の神仏分離令の時に火災で半焼し再建されませんでした。跡地の一面に社僧の石碑が残っています。



## ⑦ 楓三道

歩道の拡幅と街路形態を考え、人と車が共存できる道路として、平成4年に緑とうるおいの

川・道づくり事業で整備されました。歩道には子どものデザインによる「信楽焼陶板」や街路樹「唐楓」には住民の意見が反映され、四季が感じられるようになっています。愛称「楓三道」は公募で選ばれました。



## ⑧ 大慈山常願寺

平安時代、天台宗の修行道場として創建。戦国時代に浄土宗に改宗、天文4年(1739年)黄檗の僧鉄拳が入寺して以後黄檗宗となりました。本尊は「帯解観世音菩薩」と呼ばれ懐妊・安産の観音さんとして仰られています。明治の松明組再編までは常願寺堂の拠点でした。



## ⑨ 勝部自治会 火まつり交流館(住吉会館跡)

平成29年4月1日、長く親しまれてきた『住吉会館』から【勝部自治会火まつり交流館】と名称を変えて誕生しました。交流館には800年余り続く「勝部神社の火まつり」で若衆が奉納する松明のミニチュア、写真パネル、火まつりに関する資料を展示しています。まつり当日交流館前で、松明の余材を燃やした焚火と神酒で暖をとり、神社からのお迎えて勝部神社での修技式に臨みます。火まつり始まるの場所です。



## ⑩ 芝原山西光寺

康治元年(1142年)隆阿林慶上人により天台宗の寺院として開基され、その後浄土宗安土浄厳院の末寺となったことがありました。本尊は阿弥陀如来で法然上人像があります。松明組再編までは西光寺堂の拠点で、火まつりの太鼓は火まつり交流館で保管しています。

康治元年(1142年)隆阿林慶上人により天台宗の寺院として開基され、その後浄土宗安土浄厳院の末寺となったことがありました。本尊は阿弥陀如来で法然上人像があります。松明組再編までは西光寺堂の拠点で、火まつりの太鼓は火まつり交流館で保管しています。

## ⑪ 勝部神社 旅所

この地には左右神社(旅の安全・安産などの神)がありました。明治39年(1906年)に神社合祀令が発布されたため、明治42年(1909年)住吉神社と共に勝部神社に合祀され、その跡地は例年5月の春まつりのとき、勝部神社から出た神輿の御旅所となっています。



## ⑫ 鳥居山西福寺

寺伝に推古27年(619年)に聖徳太子の創建する所とあります。天正3年(1575年)釋寿順が真宗寺に改宗し

本願寺に属し、明和2年(1765年)仏光寺派に転帰しました。本堂は延享2年(1745年)建立されました。その後本堂は火災により天保9年(1838年)に再建されました。門前には明治初期の教育者「蓮井知城」の彰徳碑があります。



## ⑬ 紫雲山西蓮寺

文和3年(1354年)に遊行七代託何上人により開基されました。平成になって本堂改修、庫裡の新築など山内伽藍が整備されました。山門と本堂の間には市の名木「キササゲ」や「一遍上人像」があります。最近修復された本尊は、鎌倉時代の有名な「快慶」の作との説があります。明治の松明組再編までは西蓮寺堂の拠点で、火まつりの太鼓を所持しています。

文和3年(1354年)に遊行七代託何上人により開基されました。平成になって本堂改修、庫裡の新築など山内伽藍が整備されました。山門と本堂の間には市の名木「キササゲ」や「一遍上人像」があります。最近修復された本尊は、鎌倉時代の有名な「快慶」の作との説があります。明治の松明組再編までは西蓮寺堂の拠点で、火まつりの太鼓を所持しています。



## ⑭ 陽勝山善福寺

天文3年(1534年)に浄土宗安土浄厳院の末寺として仙譽壽慶上人により開基されました。本尊の阿弥陀如来

立像は鎌倉時代の一木造りで、厨子には善導大師、圓光大師(法然上人)の木像がありますが、いずれも詳細は不明です。明治の松明組再編までは善福寺堂の拠点でした。



## ⑮ エルセンター

エルセンターは守山市生涯学習・教育支援センターの愛称で、市民が気軽に学ぶことのできる施設となっています。3・4階には守山市立教育研究所があります。前庭には学びの地の歴史として「学びの記念広場」が設置されています。



## ⑯ 山田町遺跡 出土品展示

マンション建設に伴う発掘調査で出土した弥生時代中期の遺物(土器、打製石器、磨製石器、など)が展示されています。玄関ホールに発掘で出土した資料が展示されているのは全国的にも珍しい建物です。



## ⑰ 松塚休息所

この休息所は平成6年、駅前グリーンロードの新設工事時にできたもので、中央に植えられている木は、道路開通により取り除かれた、通称十三山にあった「榎」を、地元の要望により移植され大きく育ったもので、みんなの憩いの場となっています。



## ⑱ 火屋墓地(勝部火屋城跡)

この墓地は近隣4集落(勝部、浮気、千代、梅田)の共同墓地となっています。古い地籍図には小字「城ノ越」の脇に水路に囲まれた約50m四方の区画があり、築城年代は不詳ですが城館址と認定されています。